

2019年2月12日

各位

会社名 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス  
代表者名 代表取締役社長 鈴木 郷 史  
(コード番号:4927 東証第一部)  
問合せ先 コーポレートコミュニケーション室長 橋 直 孝  
(TEL. 03-3563-5517)

## 特別損失の計上および、通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2018年12月期第4四半期において特別損失を計上する見込みとなりました。その概要をお知らせするとともに、2018年11月26日に公表した通期連結業績予想の修正についてお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の計上について

##### 1) 特別損失の内容

当社グループの Jurlique ブランドに係る固定資産(のれん約 800 百万円、商標権約 8,400 百万円、その他有形・無形固定資産約 2,100 百万円)の、減損損失約 11,300 百万円を、2018年12月期第4四半期に計上いたします。

##### 2) 特別損失の計上理由

ジュリーク社は、豪州・中国・香港・トラベルリテール市場を重点市場と位置づけ、百貨店・直営店を中心に、事業拡大に取り組んでまいりました。特に中国市場では、2016年に代理店ビジネスへのモデル変革を行うなど、市場環境の変化に対応してきましたが、直近では業績は計画を下回っています。これまで業績回復に向けてグループ全体でのバックアップによる商品開発とマーケティングプランを再構築し、新製品の継続的な市場投入を順調に行い、アジア・オセアニア市場における Jurlique ブランドの回復に努めてまいりました。しかしながら、期待する成果に至るまでには時間を要しています。

特に、2018年12月期第4四半期は、店舗数の減少や費用増加により、利益計画と見通しにおける乖離幅が大きくなった状況を鑑み、今後の中長期的な事業計画および同事業が生み出す将来キャッシュ・フローを足元で見直し、減損テストを実施しました。その結果、当該減損損失を2018年12月期に計上することになりました。

今後、販売面ではキーマーケットを絞り込み、売上再成長のために資源を集中させます。また、既に実行に移している不採算店舗の閉鎖など、改革を断行していきます。組織面はダウンサイジングに着手しはじめており、コスト構造を更に見直しているところです。これらの取組みにより、2019年12月期は一時的な費用が発生しますが、2020年12月期にかけて損失面の大幅な良化を実現するとともに、プレミアムナチュラルスキンケアブランドとして Jurlique ブランドを再確立いたします。

2. 2018年12月期 通期連結業績予想数値の修正(2018年1月1日～2018年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 253,000	百万円 41,500	百万円 41,500	百万円 21,100	円 銭 95.40
今回修正予想(B)	248,500	39,400	38,900	8,300	37.53
増減額(B-A)	△4,500	△2,100	△2,600	△12,800	
増減率(%)	△1.8	△5.1	△6.3	△60.7	
(参考)前期実績 (2017年12月期 通期)	244,335	38,881	39,250	27,137	122.70

修正の理由

売上高は、中国を主としたインバウンド・バイヤー需要のトレンド変化に加え、Jurliqueブランドが計画を下回ったことから、前回発表予想より約4,500百万円減少する見込みです。

営業利益は売上高の計画差異による売上総利益の減少、経常利益は為替差損の影響により、それぞれ前回発表予想より約2,100百万円、約2,600百万円減少する見込みです。

また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては経常利益の減少および、1.に記載のとおり減損損失による特別損失約11,300百万円を計上すること等により、前回発表予想より約12,800百万円減少する見込みです。

3. 配当金について

2018年12月の期末配当につきましては、2018年10月30日に公表いたしました1株当たり45円の予想から変更はございません。

4. その他

上記の結果を踏まえ、代表取締役は月額報酬の25%、取締役は月額報酬の5%～15%を、それぞれ12ヶ月間減額を実施することとします。

(注)業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な要因の変化により、予想数値と異なる可能性があります。

以上